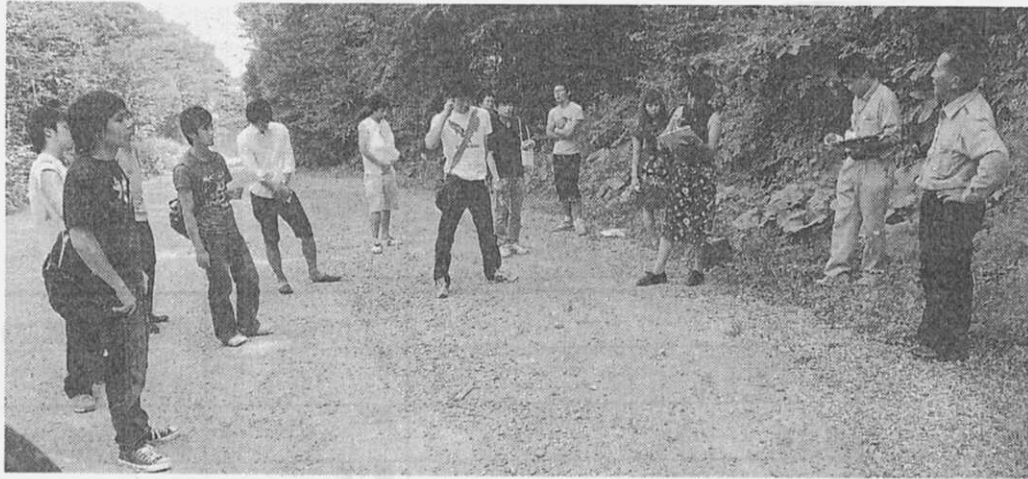


2007.8.5

成田タイムス



佐久間康徳自治会長から村道拡張事業についての説明を聞く学生ら

## 地域づくりを現場で学ぶ

### 明治大学の学生が

滝沢村へ

をつくって取り組みをしている。学生には役場で型をはめるのではなく、地域が自主的に動く様子を見てもいい」と住民協働が進む同村での取り組みについて話した。

明治大学農学部が1日から滝沢村、磐石町を訪れ、各地域の地域づくりの取り組みを学んでいる。両町村を訪れているのは農学部農業経済学部の市田知子准教授の研究室で地域計画論を学ぶ3年生11人。

2日は、姥屋敷地区で住民自らが拡張した村道鬼越洞畑線の現場を見学した。学生は姥屋敷地区の佐久間康徳自治会長から村道拡張に至る経緯を聞くとともに、住民の協働の結晶ともいえる取り組みに理解を深めた。

戦後、満州（現在の中国東北地方）から引き揚げてきた人たちが開拓者として多く入った姥屋敷地区。生活路として使ってきた村道の拡張にかける住民の思いは強く、役場では予算的に厳しかった工事を地域が結束して自らの手で成し遂げた。道路沿線の地権者との用地交渉、機械を使った作業、完成した喜びなどの話に耳を傾けた。井口彰大さんは「地域で取り組んでいることとは違いますが、住民が率先して地域を良くしよう」と話す市田准教授。今回は、前職の農水省時代に知り合った農家が研究地を選んだ。市田准教授は「村自体が地区単位で自治会を中心に地域ビジョン